演習問題

・講習の動画を見ながら判定票を記入して下さい。
・判定票の解答及び解説は動画の中で行っております。

※記入内容と解答が異なっていても、修正等は必要ありません。

【読上げ音声】VOICEVOX：波音リツ

判定表作成
問題1

演習問題①-1

A


2011 03 30

B


クラック 7cm
2011.03.30

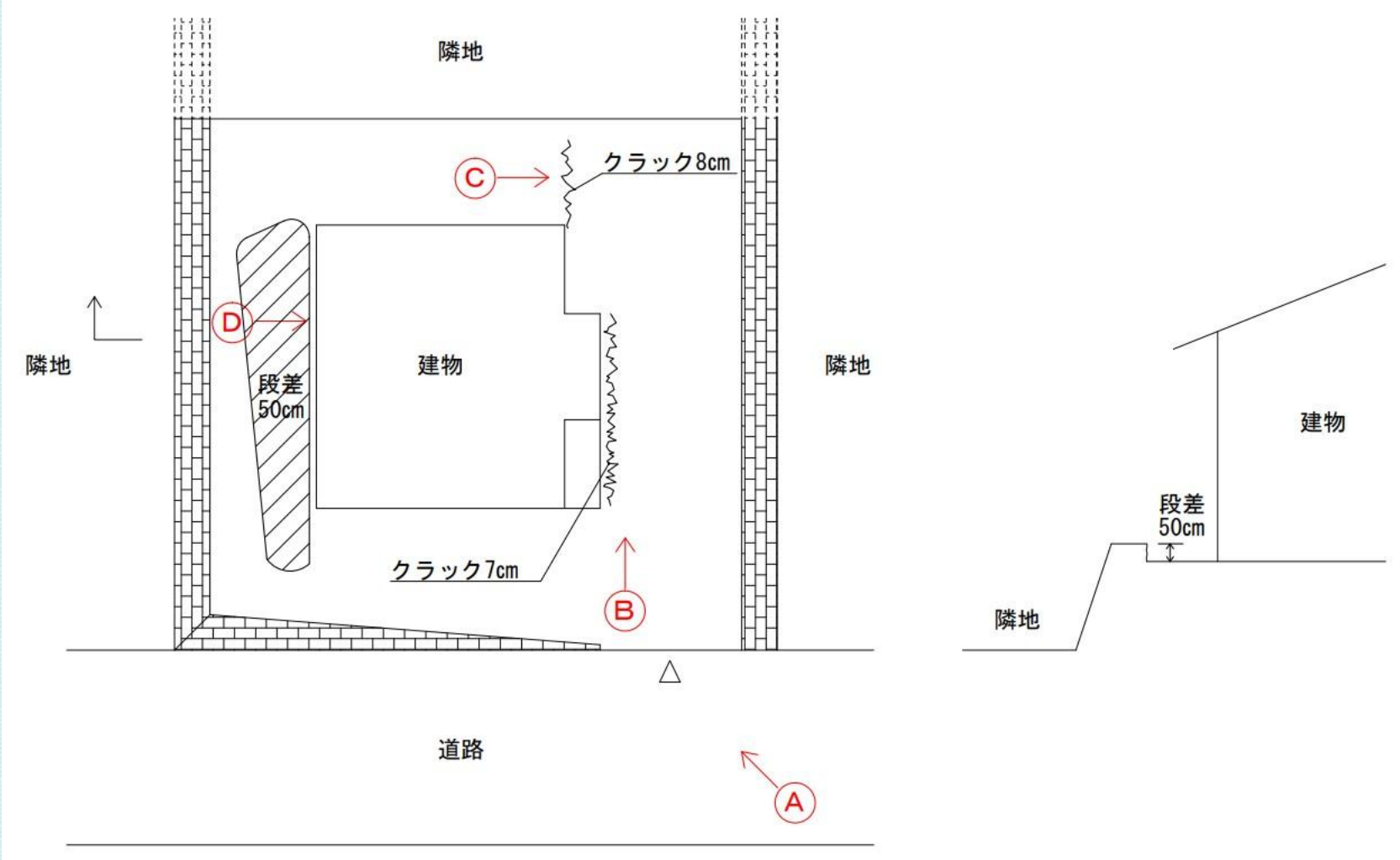
C


クラック 8cm
2011.03.30

D


段差 50cm
2011.03.30

演習問題①-2



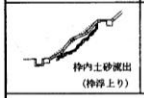
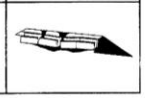
（様式－２）　宅地地盤／のり面・自然斜面被害状況調査・危険度判定票

調査票	調査日時	年　月　日　時	調査番号	
	地震名又は降雨災害名			

被害発生場所	都道府県　市郡　区町村 地区 団地　丁目　番　号		
所有者・管理者氏名		記入者氏名	TEL:
所有者・管理者の連絡先	TEL:	居住者への説明	□済　□未了 □居住者不在　□老人独居住宅

＜被災状況図＞　応急措置　□済　□未了

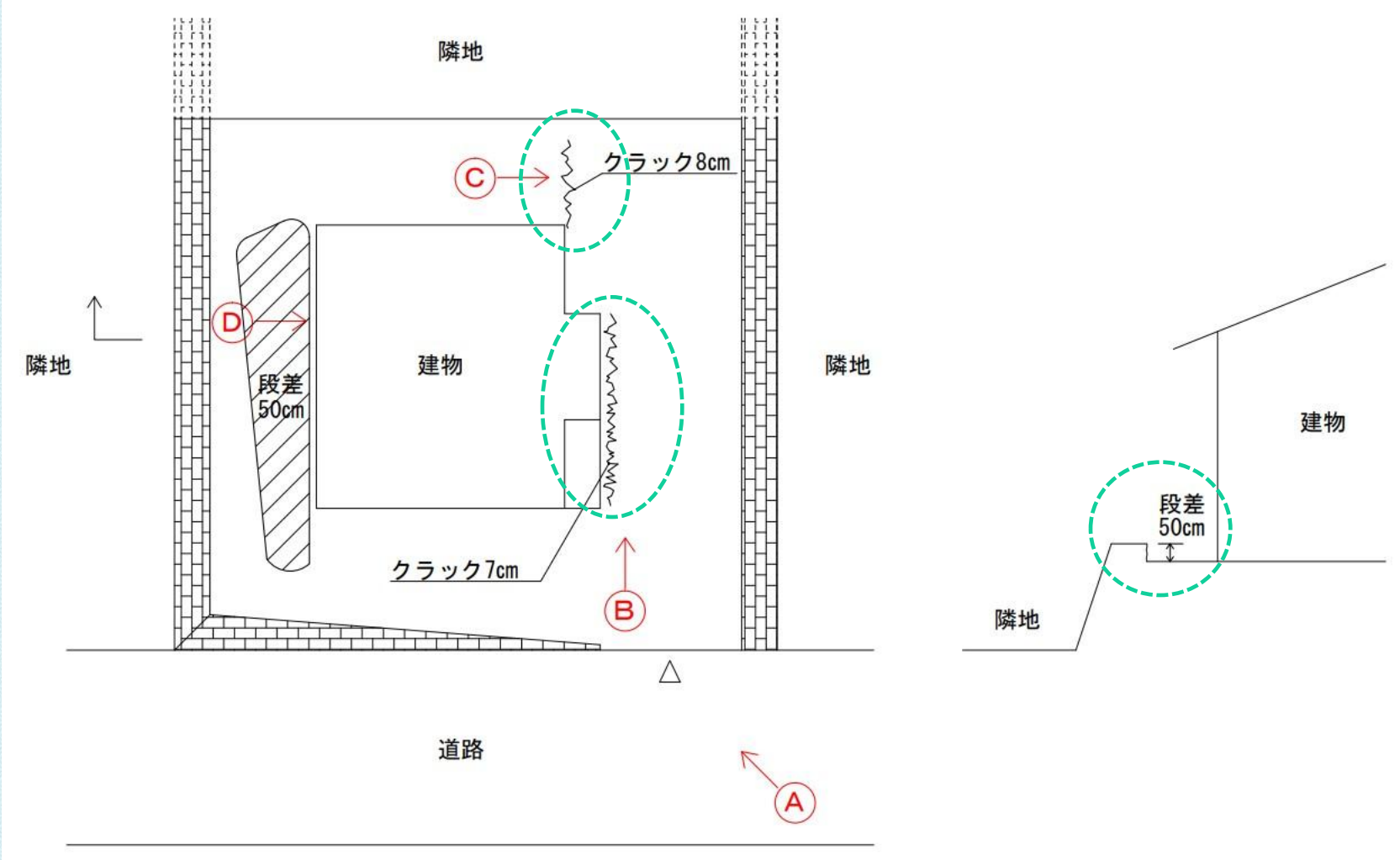
宅地地盤					のり面・自然斜面					
1.クラック	2.陥没	3.沈下	4.段差	5.隆起	1.クラック	2-1.ハラミ	2-2.盤ぶくれ	3.ガリー浸食	4-1.滑落	4-2.崩壊
										

5.のり面保護工変状	6.排水施設の変状
	

［平面図］　［断面図］

被災写真の有無	□無　□有→写真番号［　］
特記事項	

①解説－2



A


2011 03 30

B


クラック 7cm
2011 03 30

C


クラック 8cm
2011.03.30

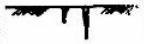
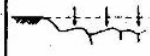
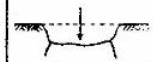
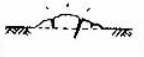
D


段差 50cm
2011.03.30

＜被　災　状　況　図＞

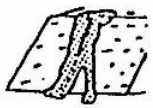
応急措置　□済　□未了

宅　地　地　盤

1.クラック	2.陥　没	3.沈　下	4.段　差	5.隆　起
				

5.のり面保護工変状	6.排水施設の変状
	

の　り　面　・　自　然　斜　面

1.クラック	2-1.ハラミ	2-2.盤ぶくれ	3.ガリー浸食	4-1.滑　落	4-2.崩　壊
					

①解説－5

のり面・自然斜面の基礎的条件				
地盤	岩	□軟岩　□硬岩　□不明	オーバーハング	□無　□有
	土　砂	□砂質土□礫質土□粘性土□不明	排水施設	□無　□有（のり肩、小段排水）
のり面高		最大高　m（平均高　m）	のり面保護工	□無　□植生工　□構造物
（複合のり面は擁壁高含）		（うち擁壁高さ　m）	擁壁配置	□のり面の上部　□のり面の中部
のり面勾配		度		□のり面の下部　□全面
のり長さ		m	家屋の有無	上部　□有　□無　：　下部　□有　□無

変 状 形 態 と 配 点 表

	変状形態のチェック（複数可）	小		中		大	
宅地地盤	1　クラック（幅）	3cm未満	1	3～15cm未満又は複数	3	15cm以上又は全面	5
	2　陥没（深さ）	20cm未満	2	20cm～50cm未満	4	50cm以上	6
	3　沈下（沈下量・規模）	10cm未満	2	10～25cm未満	4	25cm以上	7
	4　段差（段差量）	20cm未満	3	20～50cm未満	5	50cm以上	8
	5　隆起（隆起量・規模）	20cm未満	7	20～50cm未満	8	50cm以上	9
	6　湧水、噴砂	□無　□有→＋１点（上の点数に1点を加える）					

	変状形態のチェック（複数可）	小		中		大	
のり面・自然斜面	1　クラック（幅）	3cm未満又は単数	1	3～15cm未満又は複数	2	15cm以上又は全面	3
	2　ハラミ・盤ぶくれ（隆起量・規模）	10cm未満又は1宅地ごとののり面等面積に対し10%未満	3	10～30cm未満又は1宅地ごとののり面等面積に対し10～50%未満	4	30cm以上又は1宅地ごとののり面等面積に対し50%以上	5
	3　ガリー浸食	クラックなどが誘因となって雨滴による浸食が現れはじめた段階。	6	のり面の表土が雨裂に陥没するなど放置していると被害が広がるおそれのあるもの。	7	洞穴状や滝壷状にガリーが進展して家屋の基礎やのり面等の下側に被害を及ぼすような状態。	8
	4　滑落・崩壊	部分的な表層すべり、又はのり面上部の小崩壊。	7	表層すべりが進んでえぐり取られたような状態。放置すると拡大するおそれのあるもの、又はのり面中部までの崩壊。	8	全面的なすべり崩壊で、さらに拡大のおそれがあるもの、又はのり面底部を含む全崩壊。	9
	5　のり面保護工の変状（植生工は除く）	例えば、のり枠の間詰め陥没。又はコンクリート吹付工にわずかにテンションクラックが見られるが吹付工のずれは認められない程度。	7	例えば、のり枠の部分的な破損。又はコンクリート吹付工のクラック部分で陥没・ずれが見受けられる。	8	例えば、のり枠の浮上り破壊。又はコンクリート吹付工のラス金網が露出し、コンクリート吹付面にも破損が見受けられる。	9
	6　排水施設の変状	天端排水溝にずれ、欠損がある。又は、天端背面、舗装面にクラックが見られる。	3	左に加え、のり面のクラック、又は目地からの湧水がある。	5	排水溝が破断沈下するなど、排水機能が失われている。	7
	7　のり面内の水道管等の破裂	破裂して水が流出している。					8
	8　湧水、落石・転石	□無　□有→＋１点（上の点数に1点を加える）					

被害の判定値（上記の最大値を被害程度の点数とする）	点	☆被害程度の点数と危険度判定☆ 小被害：１～３点（当面は防災上問題なし）
		中被害：４～７点（制限付き立入、進行していれば避難）
危険度判定	□大　□中　□小	大被害：８～10点（危険、要避難。立入禁止）

所見（記入者の意見）		
	緊　急　度	□大　□中　□小　（人命・財産・交通の3点を判断基準とする。　）
	拡大の見込	□有　□無　□判断不可　（備考:　）

のり面・自然斜面の基礎的条件				
地盤	岩	☐軟岩　☐硬岩　☑不明	オーバーハング	☐無　☐有
	土　砂	☐砂質土☐礫質土☐粘性土☐不明	排水施設	☐無　☐有（のり肩、小段排水）
のり面高 (複合のり面は擁壁高含)		最大高　　m（平均高　　m） （うち擁壁高さ　　m）	のり面保護工	☐無　☐植生工　☐構造物
			擁壁配置	☐のり面の上部　☐のり面の中部 ☐のり面の下部　☐全面
のり面勾配		度		
のり長さ		m	家屋の有無	上部　☐有　☐無　：　下部　☐有　☐無

変状形態と配点表							
宅地地盤	変状形態のチェック（複数可）	小		中		大	
	1　クラック（幅）8cm	3cm未満	1	3～15cm未満又は複数	3	15cm以上又は全面	5
	2　陥没（深さ）	20cm未満	2	20cm～50cm未満	4	50cm以上	6
	3　沈下（沈下量・規模）	10cm未満	2	10～25cm未満	4	25cm以上	7
	4　段差（段差量）50cm	20cm未満	3	20～50cm未満	5	50cm以上	8
	5　隆起（隆起量・規模）	20cm未満	7	20～50cm未満	8	50cm以上	9
	6　湧水、噴砂	☑無　☐有→＋１点（上の点数に1点を加える）					

最大値　8点

被害の判定値 （上記の最大値を被害程度の点数とする）		8 点			☆被害程度の点数と危険度判定☆ 小被害：１～３点（当面は防災上問題なし） 中被害：４～７点（制限付き立入。進行していれば避難）
危険度判定		☑大	□中	□小	大被害：８～10点（危険、要避難。立入禁止）
所見（記入者の意見）	緊　急　度	☑大	□中	□小	（人命・財産・交通の3点を判断基準とする。　）
	拡大の見込	☑有	□無	□判断不可	（備考：　）

▼

【判定】

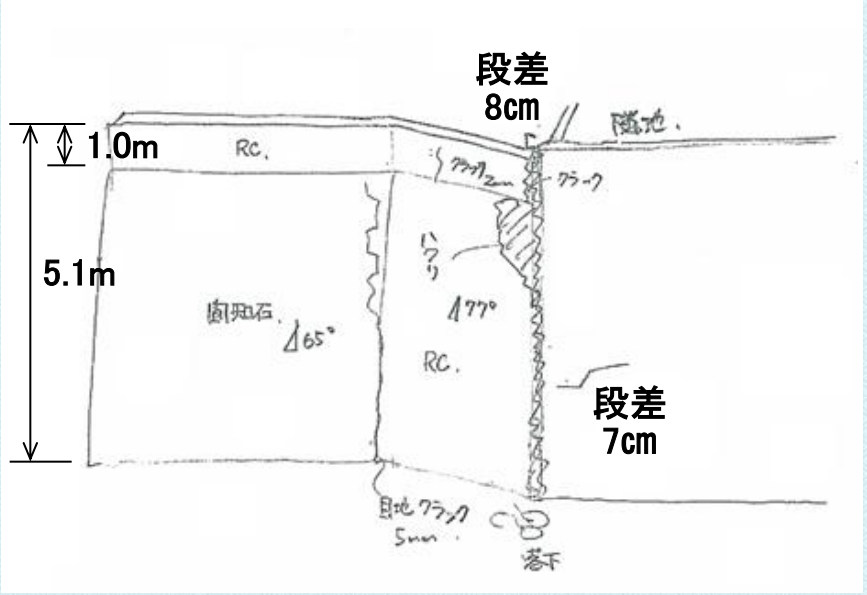
危険度 大

判定表作成
問題2

演習問題②-1

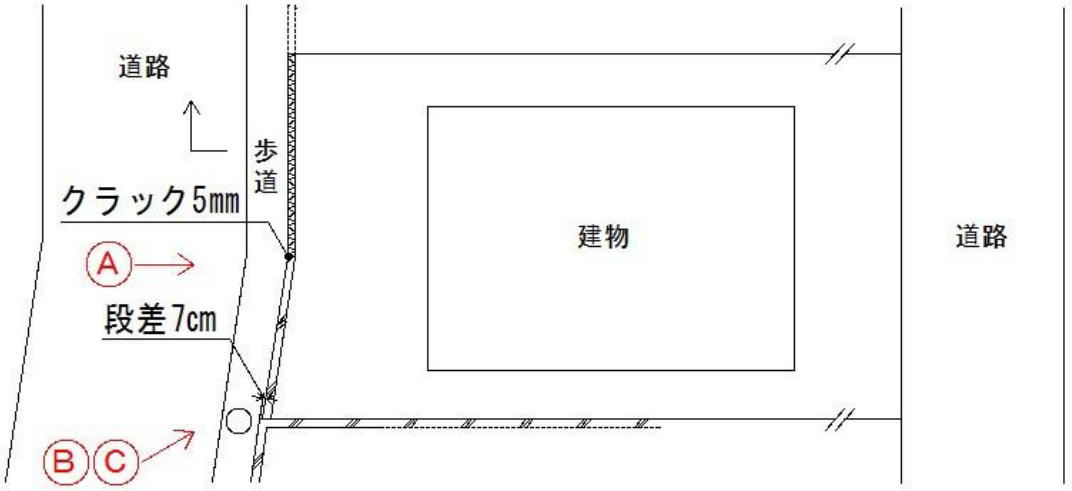


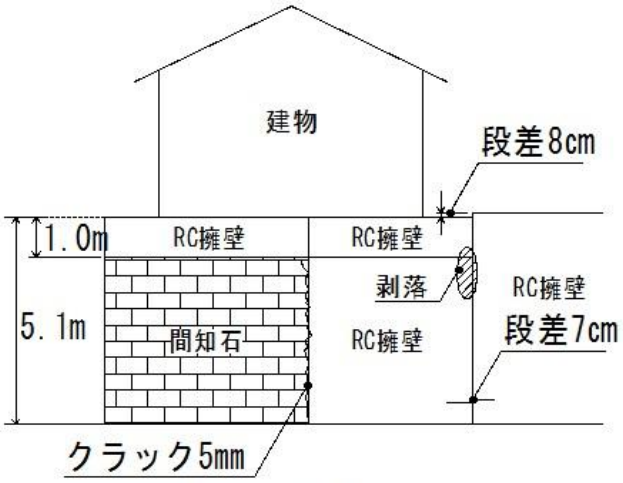




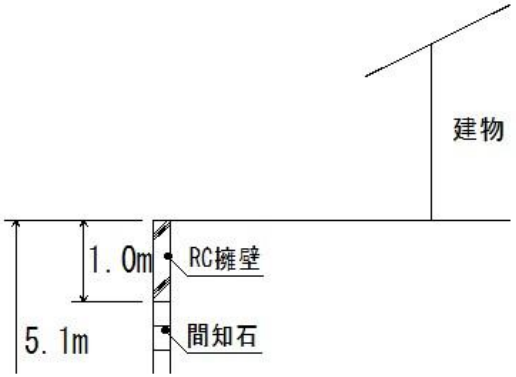


演習問題②-2


道路
歩道
クラック5mm
A
段差7cm
B
C
建物
道路


建物
段差8cm
1.0m
RC擁壁
RC擁壁
剥落
RC擁壁
5.1m
間知石
RC擁壁
段差7cm
クラック5mm

【正 面 図】

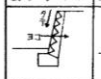
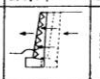
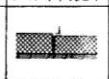
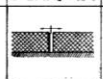
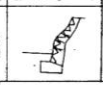
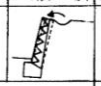
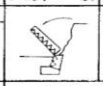
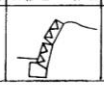

建物
1.0m
RC擁壁
5.1m
間知石

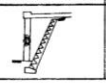
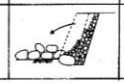
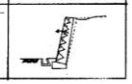
（様式－１）

擁壁被害状況調査・危険度判定票

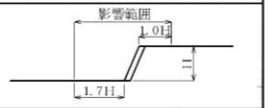
調査票	調査日時	年　月　日　時	調査番号	
	地震名又は降雨災害名			
被害発生場所	都道府県　市郡　区町村 地区 団地　丁目　番　号			
所有者・管理者氏名		記入者氏名	TEL:	
所有者・管理者の連絡先	TEL:	居住者への説明	□済　□未了 □居住者不在　□老人独居住宅	

＜被災状況図＞　　応急措置　□済　□未了

1. クラック	2. 水平移動	3-1. 不同沈下	3-2. 目地の開き	4. ハラミ	5-1傾斜	5-2倒壊	6. 擁壁の折損	7. 崩壊
								

8. 張出し床版付擁壁の支柱の損傷	9. 空石積擁壁の膨張・崩落	10. 排水施設の変状
		

建物・道路との位置関係（基礎点）



［平面図］　　［断面図］

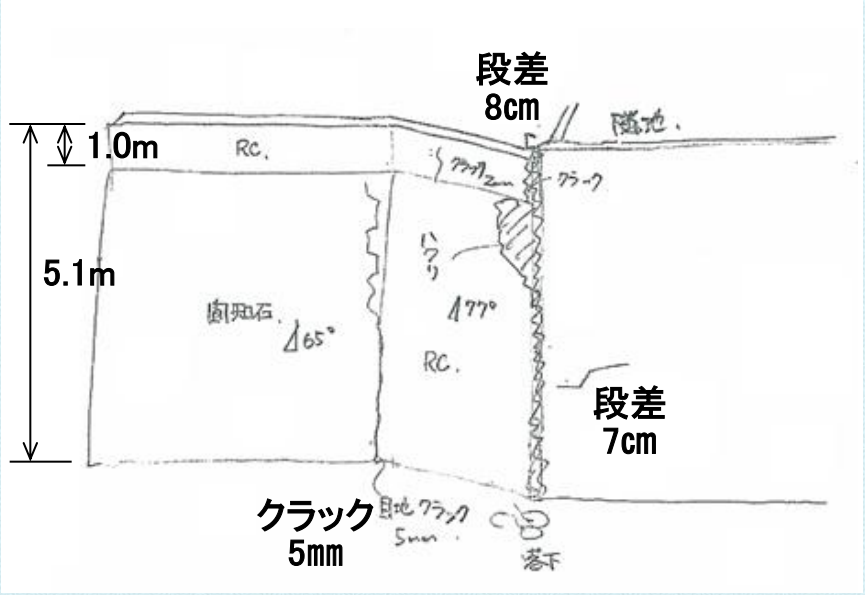
被災写真の有無	□無　□有→写真番号［　］
特記事項	

演習問題①

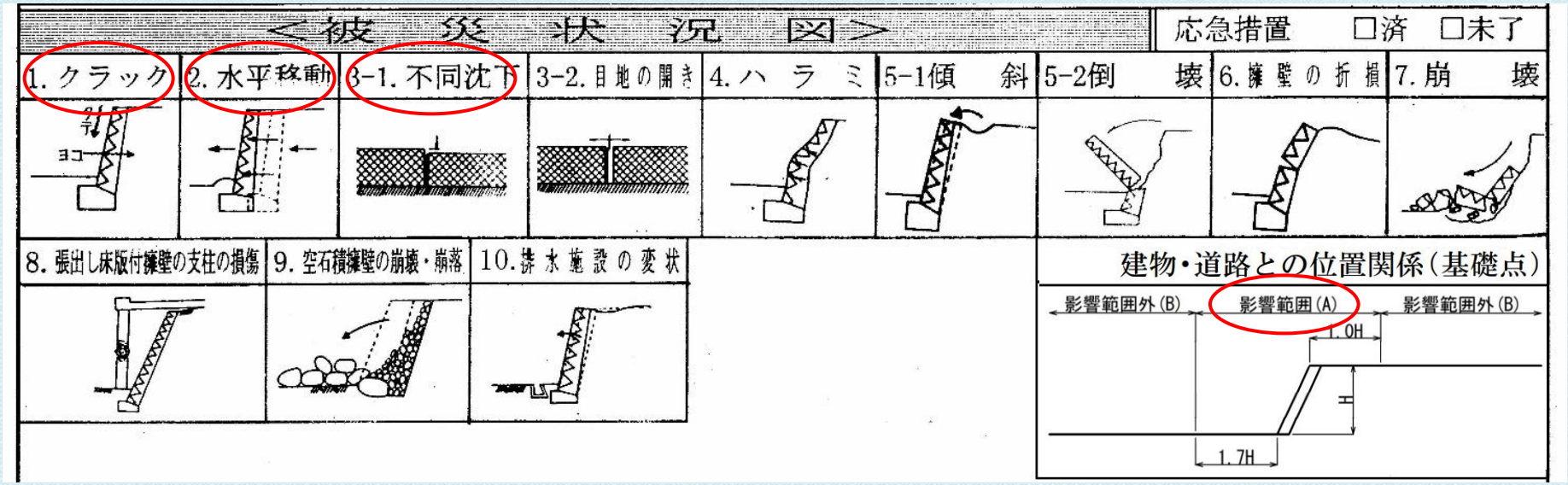
②解説－2










＜被　災　状　況　図＞
応急措置　□済　□未了
1. クラック
2. 水平移動
3-1. 不同沈下
3-2. 目地の開き
4. ハ　ラ　ミ
5-1傾　斜
5-2倒　壊
6. 擁壁の折損
7. 崩　壊
8. 張出し床版付擁壁の支柱の損傷
9. 空石積擁壁の崩壊・崩落
10. 排水施設の変状
建物・道路との位置関係（基礎点）
影響範囲外（B）
影響範囲（A）
影響範囲外（B）
1.0H
H
1.7H

擁壁の基礎的条件	擁壁の種類	□コンクリート系擁壁	□L(逆T)型　□重力式 □もたれ式 □その他[　　]	□増積み擁壁	増積部分[　　] 擁壁部分[　　] 全擁壁高　　m:増積高　　m
			□場所打ち　□プレキャスト	□二段擁壁	上部[　　] 下部[　　]
		□練石積擁壁	□間知石　□コンクリートブロック □その他[　　]		上部高　　m:下部高　　m
		□空石積擁壁	□玉石積　□くずれ石積 □間知石 □その他[　　]	□張出し床版付擁壁	□その他[　　]
				擁壁の設置条件	□切土・盛土境　□軟弱地盤上　□他　□不明
				擁壁の勾配	度

基礎点				基礎点計 ①+②+③
	□影響範囲に建物または道路がある(A)	①湧水	乾燥：0　湿潤：0.4　にじみ出し、流出：0.8	
		②排水施設	・水抜孔有、天端排水溝有、表面水の浸透阻止　：0 ・水抜孔有、天端は表面水が浸透しやすい　：0.4 ・水抜孔無、あっても数・寸法が不適当　：0.8	
		③高さ	H≦1m：0　1m＜H≦3m：0.2　3m＜H≦4m：0.4　4m＜H≦5m：0.6　5m＜H：0.8	
	□影響範囲に建物または道路がない(B)	①湧水	乾燥：0　湿潤：0.2　にじみ出し、流出：0.4	
		②排水施設	・水抜孔有、天端排水溝有、表面水の浸透阻止　：0 ・水抜孔有、天端は表面水が浸透しやすい　：0.2 ・水抜孔無、あっても数・寸法が不適当　：0.4	
		③高さ	H≦1m：0　1m＜H≦3m：0.1　3m＜H≦4m：0.2　4m＜H≦5m：0.3　5m＜H：0.4	

区分	程度	小						中						大					
	項目＼擁壁種類	コンクリ	練積	増積	2段	張出	空積	コンクリ	練積	増積	2段	張出	空積	コンクリ	練積	増積	2段	張出	空積
変状形態と配点表	1 クラック	1	2	3	4	5		2.5	3.5	4	5	7		4	5	6	7	8	
	2 水平移動	2	2.5	3.5	4	6	6	3.5	4	4.5	5	7	7	5	5.5	6	7	9	9
	3 不同沈下・目地の開き	3	3.5	4	5	7		4.5	5	6	7	9		6	7	8	9	10	
	4 ハラミ		4.5	5	6	8	8		6	7	8	9	9		8	9	10	10	10
	5 傾斜・倒壊	5	5.5	6	7	8		7	8	8	9	10		8	9	10	10	10	
	6 擁壁の折損	6	6.5	7	8	9		7	8	9	9	10		8	9	10	10	10	
	7 崩壊		9	9	10	10	8		10	10	10	10	9		10	10	10	10	10
	8 張り出し床版付擁壁の支柱の損傷					7						9						10	
	9 基礎及び基礎地盤の被害	10																	
	10 排水施設の変状	3						5						7					
	11 擁壁背面の水道管等破裂	10																	

変状の程度 大・中・小の概要説明	項目＼程度	小	中	大
	1 クラック(幅)	2mm未満のクラックはあるが、機能上の支障なし(コンクリート系擁壁の場合2mm未満)。	2mm～20mm未満 (コンクリート系擁壁の場合2mm～5mm未満)	20mm以上 (コンクリート系擁壁の場合5mm以上)
	2 水平移動 (伸縮目地前後のずれ)	5mm未満の隙間(変位)がある。	5mm～50mm未満の隙間(変位)がある	50mm以上の隙間(変位)がある。
	3 不同沈下・目地の開き (目地上下・左右の開き)	5mm未満の目地上下のずれ又は目地の開きがある。	5mm～50mm未満の目地上下のずれ又は目地の開きがある。	50mm以上の目地上下のずれ又は目地の開きがあり、滑動、転倒のおそれが有る。
	4 ハラミ (テンションクラック・ずれ・中抜け)	小規模のハラミ及び中抜け(積石が1～2個抜け落ちる)	宅地地盤にテンションクラック無し 円弧すべりのおそれ無し	宅地地盤にテンションクラック有り 円弧すべりのおそれ有り
	5 傾斜・倒壊	擁壁が前面地盤に対し垂直以下。(コンクリート系擁壁の場合:天端50mm未満の傾斜)	擁壁が前面地盤に対し垂直以上。(コンクリート系擁壁の場合:天端50mm以上の傾斜)	擁壁が前傾・倒壊してその機能を失っているもの。
	6 擁壁の折損 (横・斜めひびわれから起きるもの。はらんではいるが曲線的でなく、クラックを境に鈍角に折れている。)	クラックを境にわずかに角度をなしている。 (コンクリート系擁壁の場合クラックを境にわずかに前傾している。)	クラックを境に明らかに角度をなしており、抜け石があり、裏込めコンクリートが見える。(コンクリート系擁壁の場合クラックを境に前方に傾斜している。)	一見して大であると判るもの (コンクリート系擁壁の場合クラックを境に前傾している。又は、1mmでも剪断破壊があり、後傾している。)
	7 崩壊	中間辺りから上が滑っている。	基礎部を残して滑っている。	機能を果たしていない。
	8 張出し床版付擁壁の支柱の損傷	支柱にひびが入っている。	支柱のコンクリートがはがれて鉄筋が見えている。	支柱の剪断破壊。
	9 基礎及び基礎地盤の被害	大規模な沈下やクラックが生じている。		
	10 排水施設の変状	天端排水溝にずれ、欠損がある。又は、天端背面、舗装面にクラックが見られる。	左に加え擁壁のクラック又は目地からの湧水がある。	水抜孔の詰まり、破損があり、排水機能が失われている。
	11 擁壁背面の水道管等の破裂	破裂して水が流出している。		

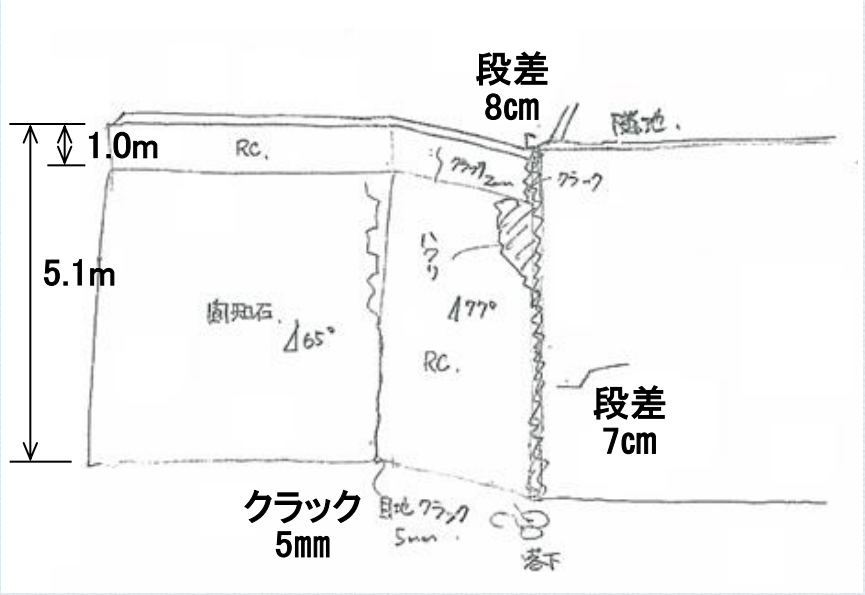
被害の判定値 (基礎点に上記の最大値を加えた点数とする)	基礎点 ＋ 被害点 [　] + [　] = [　] 点	☆被害程度の点数と危険度判定☆ 小被害：4.5点未満	当面は防災上問題なし
		中被害：4.5点以上～8.5点未満	制限付き立入。通行していれば避難
		大被害：8.5点以上	危険、要避難。立入禁止
危険度判定	□大　□中　□小		
所見(記入者の意見)	緊急度	□大　□中　□小　(人命・財産・交通の3点を判定基準とする。)	
	拡大の見込	□有　□無　□判断不可(備考：　　)	

演習問題①

②解説－5









擁壁の基礎的条件	擁壁の種類	□ｺﾝｸﾘｰﾄ系擁壁	□L(逆T)型 □重力式 □もたれ式 □その他[ ]		☑増積み擁壁	増積部分[RC] 擁壁部分[RC] 全擁壁高 5.1 m;増積高 1.0 m
			□場所打ち □ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ		□二段擁壁	上部[ ] 下部[ ] 上部高 m;下部高 m
		□練石積擁壁	□間知石 □ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ □その他[ ]			
		□空石積擁壁	□玉石積 □くずれ石積 □間知石 □その他[ ]		□張出し床版付擁壁	□その他[ ]
					擁壁の設置条件	□切土・盛土境 □軟弱地盤上 □他 □不明
					擁壁の勾配	度

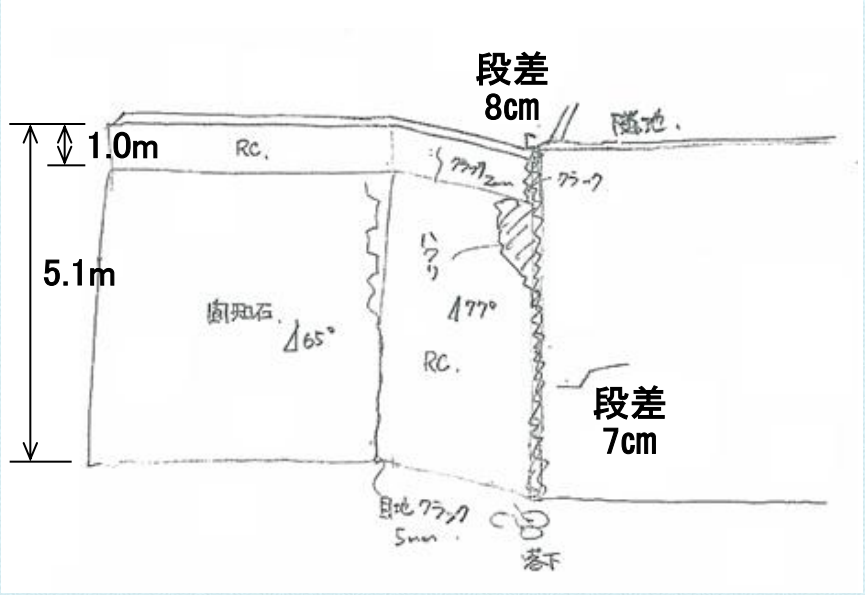
			☑影響範囲に建物または道路がある	□影響範囲に建物または道路がない(B)	
基礎点	①湧水	乾燥	0	0	基礎点計 ①+②+③ □
		湿潤	0.4	0.2	
		にじみ出し、流出	0.8	0.4	
	②排水施設	水抜孔有、天端排水溝有、表面水の浸透阻止	0	0	
		水抜孔有、天端は表面水が浸透しやすい	0.4	0.2	
		水抜孔無、あっても数・寸法が不適当	0.8	0.4	
	③高さ	H≦1m	0	0	
		1m＜H≦3m	0.2	0.1	
		3m＜H≦4m	0.4	0.2	
		4m＜H≦5m	0.6	0.3	
		5m＜H	0.8	0.4	

演習問題①

②解説－8









			☑影響範囲に建物または道路がある	□影響範囲に建物または道路がない(B)	
基礎点	①湧水	乾燥	0	0	基礎点計 ①+②+③ 1.6
		湿潤	0.4	0.2	
		にじみ出し、流出	0.8	0.4	
	②排水施設	水抜孔有、天端排水溝有、表面水の浸透阻止	0	0	
		水抜孔有、天端は表面水が浸透しやすい	0.4	0.2	
		水抜孔無、あっても数・寸法が不適当	0.8	0.4	
	③高さ	H≦1m	0	0	
		1m＜H≦3m	0.2	0.1	
		3m＜H≦4m	0.4	0.2	
		4m＜H≦5m	0.6	0.3	
		5m＜H	0.8	0.4	

区分	項目＼程度／擁壁種類	小						中						大					
		ｺﾝｸﾘ	練積	増積	2段	張出	空積	ｺﾝｸﾘ	練積	増積	2段	張出	空積	ｺﾝｸﾘ	練積	増積	2段	張出	空積
変状形態と変状点	1 クラック	1	2	3	4	5		2.5	3.5	4	5	7		4	5	6	7	8	
	2 水平移動	2	2.5	3.5	4	6	6	3.5	4	4.5	5	7	7	5	5.5	6	7	9	9
	3 不同沈下・目地の開き	3	3.5	4	5	7		4.5	5	6	7	9		6	7	8	9	10	
	4 ハラミ		4.5	5	6	8	8		6	7	8	9	9		8	9	10	10	10
	5 傾斜・倒壊	5	5.5	6	7	8		7	8	8	9	10		8	9	10	10	10	
	6 擁壁の折損	6	6.5	7	8	9		7	8	9	9	10		8	9	10	10	10	
	7 崩壊		9	9	10	10	8		10	10	10	10	9		10	10	10	10	10
	8 張り出し床版付擁壁の支柱の損傷					7						9						10	
	9 基礎及び基礎地盤の被害	10																	
	10 排水施設の変状	3						5						7					
	11 擁壁背面の水道管等破裂	10																	

変状の程	項目＼程度	小	中	大
	1 クラック（幅） RC部 2mm	2mm未満のｸﾗｯｸはあるが、機能上の支障なし（ｺﾝｸﾘｰﾄ系擁壁の場合2mm未満）。	2mm～20mm未満（ｺﾝｸﾘｰﾄ系擁壁の場合2mm～5mm未満）	20mm以上（ｺﾝｸﾘｰﾄ系擁壁の場合5mm以上）
	2 水平移動（伸縮目地前後のずれ） 7cm	5mm未満の隙間（変位）がある。	5mm～50mm未満の隙間（変位）がある	50mm以上の隙間（変位）がある。
	3 不同沈下・目地の開き（目地上下・左右の開き） 8cm	5mm未満の目地上下のずれ又は目地の開きがある。	5mm～50mm未満の目地上下のずれ又は目地の開きがある。	50mm以上の目地上下のずれ又は目地の開きがあり、滑動、転倒のおそれが有る。

最大値　8点

被害の判定値 ※基礎点に変状点の最大値を加えた点数 ※無被害の場合は基礎・被害点の記載無し		基礎点 1.6 ＋ 変状点 8.0 ＝ 9.6 点	☆被害程度の点数と危険度判定☆ 無被害： 0 点(防災上問題無し) 小被害：1 ～4.5 点未満（当面は防災上問題無し） 中被害：4.5 点～8.5 点未満 （制限付き立入、進行していれば避難） **大被害：8.5 点～(危険、要避難、立入禁止)**
危険度判定		☑大 □中 □小 □無	
所見(記入者の意見) ※無被害の場合は記載無し	緊 急 度	☑大 □中 □小	（ 人命・財産・交通の3点を判定基準とする。 ）
	拡大の見込	☑有 □無 □判断不可	（ 備考： ）

【判定】

危険度 大

～判定票の提出について～

・講習動画視聴後、本判定票を石川県土木部建築住宅課のメールアドレス（kenjuu@pref.ishikawa.lg.jp）宛に提出してください。

・メールの件名は、『【被災宅地（氏名）】判定票の提出について』としてください。

・判定票の提出を確認後、認定登録証を送付します。（1月以降の発送となります。）

・回答期限は令和8年12月11日（金）です。